

庫文社四

A·種一第·部甲

集論評報新事時

(〇三九一)

著 弼 公 潘

行發部版出社四

月十年二十二國民

庫文社四
種一第一 部甲
集論評報新事時
(〇三九一)
著 潘公弼

行發部版出社四
月十年二十二國民

時事新報評論集

第一集

元一價實冊每
費寄加酌準外

著作人 潘公弼

發行人 張竹平

時事新報
大晚報
四社出版部
大陸報
申時電訊社合組

發行所
印 刷 所
門市部
時事新報
館

經售處
各埠各大書局

究必印翻有所權版

民國二十二年二月初版

例言

一時事新報夙有社評，體裁屢更，自民國十九年五月起，廢具名制，以示報紙評論，殊於個人論文，故本書稱時事新報評論集。

一著者爲時事新報撰評，先後可分若干時期，自民國十九年五月重主筆政後，平時將所撰別留副本。茲應四社出版部之請，僅得以副本應之，故時事新報撰評者，雖不一人，而本書各篇皆著者所述。

一時事新報除採登時質論文外，平日每日一題，稱社評；星期日短文數篇，稱星期評論，由來已久，迄仍世制。本書編印格式，略有報上面目，復於目次中短文加★符號，以明區別。

一各篇中偶有『昨評』『前論』如何云云，而本書並無其文者，都非著者撰述，副本所無，不及採入。

一本書各篇不以性質分類，而以月日編次，蓋世事錯綜，一文未必論一事，數事未必同性質，勉強

分類，甚屬無謂，而序以月日，則讀者或因此而得覩既往推演變幻之跡象。

一立言論事，必有時代爲背景，古今中外皆然。日報評論尤甚。故談言微中，而歷久不磨者有之；或時過境遷，而不值一顧者有之；若刻舟求劍，則時事新報與著者恕不負責。

本書所輯，至民國十九年杪（一九三〇年）爲止。此後仍以一年爲一集。二十二一年者，亦在整理中，期以兩閱月陸續刊行。

時事新報評論集

(一九三〇)

潘公弼著

目 次

(有★記號者為星期評壇)

例言

勞動紀念日

(五月一日).....一

★官乎官乎

(五月四日).....四

市與縣

(五月七日).....五

失業問題會議

(五月九日).....八

★功德無量

(五月十一日).....一

墨索里尼與報紙

(五月二十日).....二

★甯願無旅

(五月二十五日).....一五

★蘇俄豪奢	(五月二十五日).....	一六
整理財政泛談	(五月二十九日).....	一七
紀念五卅	(五月三十日).....	一〇
歡迎運動選手歸國	(六月四日).....	三三
★國語教育	(六月八日).....	一六
★俄國移民遠東	(六月八日).....	一七
民衆匪化	(六月十一日).....	一八
聞四川近事	(六月十三日).....	三一
★蒙古會議閉幕	(六月十五日).....	三四
廣治國救國論	(六月十七日).....	三六
注音符號	(六月十八日).....	三九
★撫亂與演職	(六月二十二日).....	四三

★電話股東

實業界之集中資力

平凡普遍之應付經濟國難

★租界電話問題

★不可已乎

★不得留學

食米問題

再論民食

汎太平洋佛教青年會議

二輪體之推行國產

三省剿匪會議

★工人運動

(六月二十二日).....四四

(六月二十四日).....四五

(六月二十七日).....四八

(六月二十九日).....五一

(六月二十九日).....五二

(六月二十九日).....五三

(六月三十日).....五四

(七月一日).....五八

(七月二日).....六一

(七月四日).....六五

(七月五日).....六八

(七月六日).....七一

求出路罪言	(七月十二日).....	七二
★葫蘆島與僑胞	(七月十三日).....	七五
★泰安慘劇	(七月十三日).....	七六
上海市商會	(七月十五日).....	七七
★咄咄書籍捐	(七月二十日).....	八〇
★官吏豈鐵飯碗	(七月二十日).....	八一
★浙江好面目	(七月二十日).....	八二
勞工教育	(七月二十一日).....	八三
民衆義勇隊	(七月二十二日).....	八六
★哀趙鐵橋	(七月二十七日).....	八九
★法租界水電一潮	(七月二十七日).....	九一
★黨格與人格	(七月二十七日).....	九二

坐待黎明

(七月二十九日).....九三

上海市通志

(七月三十日).....九六

交割後之電話交涉

(八月一日).....九九

人口與農業

(八月二日).....一〇二

★請外國人

(八月三日).....一〇五

★女子犯罪

(八月三日).....一〇六

★國人不應坐視

(八月三日).....一〇七

長沙事件

(八月四日).....一〇八

民團

(八月五日).....一一一

整頓行政與吏治

(八月六日).....一一四

教育界之新法令

(八月七日).....一一七

歡送留學生

(八月八日).....一一〇

★共不產	(八月十日).....	一三三
★人禍新解	(八月十日).....	一二四
★招商局	(八月十日).....	一二五
★佛教團應求之答案	(八月十日).....	一二六
★提倡國貨之條件	(八月十四日).....	一二七
治標與治標之前	(八月十四日).....	一二八
割後之捐	(八月二十一日).....	一三一
★附郭要塞	(八月二十四日).....	一三四
★毀牌坊	(八月二十四日).....	一三五
上海之鬼門關	(八月二十八日).....	一三六
★內政會議	(八月三十一日).....	一三九
★幸而民窮財盡	(八月三十一日).....	一四〇

★別有遠圖

舉辦民團之條件

(八月三十一日).....一四一
(九月二日).....一四二

豐稔與農村經濟

(九月三日).....一四五

治外法權下之外國謠言與嚴厲檢查下之本國電訊

(九月四日).....一四八
(九月七日).....一五一

★西藏學生

(九月七日).....一五二
(九月七日).....一五三

★馮玉祥何來古畫

(九月七日).....一五四
(九月七日).....一五四

★仕優則學

(九月八日).....一五六
(九月八日).....一五六

★有是哉？

(九月九日).....一五六
(九月九日).....一五六

日商態度與中日關係

(九月十日).....一五六
(九月十日).....一五六

教育估價

收回租界前之吸收市民	(九月十一日).....	一六二
★越權嚴懲	(九月十四日).....	一六五
★商戰與愛國心	(九月十四日).....	一六六
★流行性之成語	(九月十四日).....	一六七
易招商局總辦李仲公氏	(九月十五日).....	一六八
附張則仁・整理招商局	(九月十六日).....	一七一
下層工作	(九月十七日).....	一七七
讀整理招商局條例	(九月十八日).....	一八〇
「爲情犧牲」	(九月二十三日).....	一八三
德記者訪意相記書後	(九月二十五日).....	一八六
洋釐劇變與幣制	(十月二日).....	一八九
★廢歷書數十萬	(十月五日).....	一九二

徵收房租與市銀行

(十月六日).....一九三
雙十節之回顧與今後之努力

★政治意識

★民食的國防

★固何所爲

★不可抗之權威

★英國飛船失事

時局轉換之始

氣象之轉換

政治責任觀念之更始

報紙要求之解放

戰後之軍人

(十月二十一日).....二一九	九
(十月二十日).....一九六	
(十月十二日).....一一一	
(十月十二日).....一一〇	
(十月十一日).....一一〇	
(十月十二日).....一一〇五	
(十月十三日).....一一〇六	
(十月十二日).....一一〇七	
(十月十四日).....一一〇	
(十月十五日).....一一三	
(十月十六日).....一一六	



黨務	(十月二十三日).....	一一一
釋特殊階級	(十月二十九日).....	一一五
統一贅言	(十月三十日).....	一二八
新聞檢查不可已乎	(十一月六日).....	一三一
工商問題展覽之後	(十一月十日).....	一三四
期望於四中全會者	(十一月十二日).....	一三七
歡迎張學良氏	(十一月十三日).....	一四〇
★取消檢查新聞而後	(十一月十六日).....	一四三
★國產營業計劃	(十一月十六日).....	一四四
國民會議之謬	(十一月十七日).....	一四五
國民會議之條件	(十一月十八日).....	一四八
四中全會閉幕	(十一月十九日).....	一五一

集中才智罪言

(十一月二十二日).....二五四

★胡文虎

(十一月二十三日).....二五七

★世界裝

(十一月二十三日).....二五八

中央與各省區

(十月二十五日).....二五九

亂後之期望

(十月二十六日).....二六二

張副司令北歸

(十一月二十七日).....二六五

★創航南洋

(十一月三十日).....二六八

財權統一與治亂

(十二月一日).....二六九

明令整飭官常之實效

(十二月四日).....二七二

立法院之兩年與今後

(十二月五日).....二七五

★閻錫山之東渡

(十二月七日).....二七八

整飭學風之鐵律

(十二月九日).....二七九

敬告從事教育者	(十二月十日).....	二八二
答日本時事新報	(十二月十三日).....	二八五
日本現內閣之反動	(十一月十六日).....	二八八
日本重提要求之傳說	(十一月十八日).....	二九一
★道歉與威信	(十二月二十一日).....	二九四
★調查戶口	(十二月二十三日).....	二九五
行矣閱錫山	(十二月二十九日).....	二九六
剿匪	(十二月二十九日).....	二九九